産 業 建 設 常 任 委 員 会

日時　令和７年４月２１日（月）
午前１０時００分から
場所　現地及び全員協議会室

＜現地視察＞　午前１０時００分から
(1) 作道第一排水区雨水対策施設整備事業（作道地内）
(2) 射水市ビジネス支援センター（アル・プラザ小杉内）
＜委員会＞　午後１時３０分から

１　職員紹介

産業経済部 ⇒ 都市整備部 ⇒ 上下水道部

２　議題

(1) 令和７年度各部・課等の所管事項及び主要事業について
産業経済部・農業委員会 ⇒ 都市整備部 ⇒ 上下水道部

(2) 報告事項（６件）

①　令和６年度能登半島地震で被災した中小企業支援及び物価高騰対策のための生活支援事業の実績について
（産業経済部　商工企業立地課　資料１）

②　越中だいもん凧まつり事業の見直しについて
（産業経済部　観光まちづくり課　資料１）

③　内川未来戦略会議からの報告書の概要について
（産業経済部　観光まちづくり課　資料２）

④　令和６年度ふるさと射水応援寄附（ふるさと納税）について
（産業経済部　農林水産課　資料１）

⑤　電動キックボードの実証実験について
（都市整備部　都市計画課　資料１）

⑥　公共下水道（地震対策）太閤山処理区汚水管改築（第２２工区）工事の事故繰越について
（上下水道部　下水道工務課　資料１）

(3) その他

産業経済部商工企業立地課　資料１
産業建設常任委員会
令和７年４月２１日

令和６年度能登半島地震で被災した中小企業支援及び物価高騰対策のための生活支援事業の実績について

１　趣旨

長期間にわたる物価高騰及び能登半島地震により影響を受けている市民生活への支援及び事業に多大な影響を受け、厳しい経営環境に置かれている市内中小企業・小規模企業の経営を支援するため実施したもの。

２　事業名　プレミアム付デジタル商品券「いみずデジタル商品券事業」

３　事業概要

（１）事業主体　射水市商工協議会（委託先：テルウェル西日本株式会社（ＮＴＴグループ））
（２）内　容
　１セット１０，０００円（券面額１３，０００円）プレミアム率３０％
　・共通券：大企業を含む全店で使用可　６千円分
　・地域券：中小・小規模企業でのみ使用可　７千円分
（３）発行数　１８，０００セット
（４）販売方法　事前申込制（市民のみ）、１人１セットのみ購入可能（家族分同時申込可）
　クレジット決済又はコンビニ購入
（５）利用期間　令和６年１１月１日（金）～令和７年１月５日（日）
（６）対　象　全業種（射水商工会議所又は射水市商工会会員の店舗　計３１８店舗）
（７）予　算　８３，４００千円
　（市補助金：６８，４００千円 県補助金：１５，０００千円）
　内訳 プレミアム(３０%) ５４，０００千円 委託料２９，４００千円

４　事業実績

（１）販売実績　１７，９６８セット　１７９，６８０，０００円（９９．８%）
（２）利用額　２３２,７５４,９４９円（９９．６%）※R5 実績 利用率:９９．５%
（３）決算額　８２，４７５千円
　（市補助金：６７，４７５千円 県補助金：１５，０００千円）
（４）利用割合　中小企業:６８% 大企業:３２%　※R5 実績同様
（５）利用先　スーパー・食料品:７２．６%　飲食店:８．６%　その他:１８．８%
　（R5 実績　スーパー・食料品：65.7%　飲食店：10%　その他：24.3%）
（６）意見等　普段行かないお店に行く良い機会となった、デジタル化への理解が進んだ等の意見があった一方、アプリ利用に関して配慮を求める意見もあったことから、令和７年度事業においては、これらの意見を踏まえ、事業主体と実施方法について協議していく。

産業経済部観光まちづくり課 資料１
産業建設常任委員会
令和７年４月２１日

越中だいもん凧まつり事業の見直しについて

１　経緯

先般開催された越中だいもん凧まつり実行委員会において、参加団体が年々減少していることなどを総合的に考慮し、本実行委員会が主体となって開催する凧まつりは、令和７年度（５月１８日〔日〕開催予定）をもって終了することが決定された。

２　事業見直しの背景

・　参加団体の減少

参加団体数	自治会	児童クラブ	愛好者団体	企業等	計
令和元年度	３０	２６	３３	２４	１１３
令和６年度	１０	7	5	3	２５

・　来場者数の減少

令和元年度：５，０００人　→　令和６年度：２，５００人
（GPS を用いた人流分析による２０歳以上の人数）

・　凧の制作や凧まつり当日の安全管理等を担う越中だいもん凧の会など地域の担い手の減少、高齢化

３　今後の方針

・　大門地域を中心に育まれた凧文化を次代に継承するため、凧づくり教室への助成の拡充を検討する。（例：これまで大門小学校の児童のみを対象→市全域へ対象を拡大）
・　凧揚げに関するイベントを主体的に開催する団体への新たな補助制度の創設を検討する。

産業経済部観光まちづくり課 資料２
産業建設常任委員会
令和７年４月２１日

内川未来戦略会議からの報告書の概要について

１　経緯

令和６年７月、内川のブランド価値の飛躍的向上を実現し「稼げる観光」「関係人口の拡大」等による地域経済の好循環を生み出す戦略を検討するため「内川未来戦略会議」を設置、計８回の会議を開催し、本年３月２５日、市長に対し報告書が提出された。

２　委員構成

氏名	役職	氏名	役職
明石　あおい	株式会社ワールドリー・デザイン代表取締役	青井　茂	株式会社アトム代表取締役
五十嵐　友輔	越中祭青年会副会長	高木　新平【副座長】	株式会社ニューピース代表取締役CEO
加治　幸大	株式会社imizutto代表取締役	中川　めぐみ	株式会社ウオー代表取締役
木村　広	株式会社新湊観光船取締役専務	永谷　亜矢子	立教大学経営学部客員教授
野口　和宏	富山湾しろえび倶楽部発起人	福田　和則	株式会社エンジョイワークス代表取締役
牧田　和樹【座長】	一般社団法人射水市観光協会会長		

計１１名

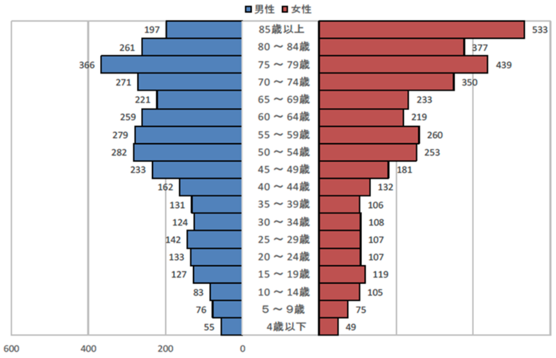
３　報告書（概要）

（１）内川周辺エリアの現状

急速に進む高齢化と人口減少により、移住や新規出店を遥かに上回る速度で空き家が増加。注目はされながらも、住民は急激に減り続け、この先地域コミュニティの維持が困難になりつつある。

▶ 今後内川がどのようなエリアを目指していくか。内川の**価値を共通認識化し、今打つべき施策を明確にする**必要がある。

85歳以上の女性が最も多い層



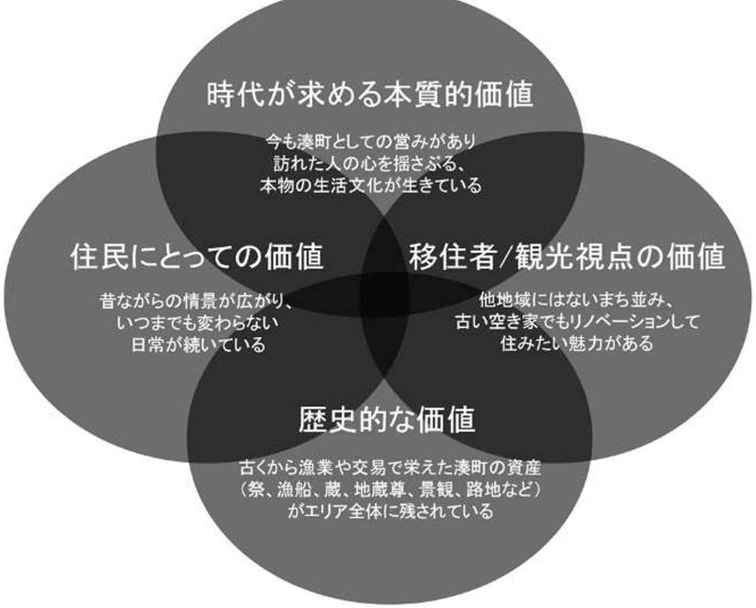
人口は10年間で約**２割**減少

2014.3.31 **12,129人** ▶ 2024.3.31 **9,745人**（△2,384人）

空き家数は10年間で**27.2%**増加

2011年 **526戸** ▶ 2021年 **669戸** 空き家率14.3%（+143戸）

（２）内川が持つ価値とビジョン（目指すべき未来像）



「４つの価値」が、意図せず偶然に重なり合っている風情こそ、内川の価値

人口減少、空き家問題、産業衰退などの課題を抱えながらも、なお来街者や移住者たちを惹きつけるのはなぜか。

それは、内川周辺に今なお人々が暮らし、なりわいが成り立っているなど「湊町としての営みが感じられる」点にある。

形を変えながらも、これからも内川周辺が「まちの営みが感じられる地域」であり続けることが、内川の価値を高め、未来へとつないでいく条件である。

〔この価値を未来につないでいくためのビジョン〕

わざわざ暮らしたい奇跡の湊町、内川

- わざわざ：深刻な人口減少、空き家の急増、産業衰退など地域の存続が危ぶまれる中「わざわざ」ここで暮らしたいという人が増え続ける、不思議な魅力
- 奇跡：意図せず偶然の積み重ねで、文化、暮らし、営みが継承され、湊町らしい情景を保ちながら、時代が求める価値を体現していることが「奇跡」であり、未来に残すべき内川の姿
- 湊町：貿易港や漁師町でなくなっていったとしても、魚の美味しさ、船と共にある「湊町」であり続ける

（３）ビジョン実現に向けた４つのアクション

	（１） エリアの活性化、交流促進	（２） 内川の情景を未来につなぐ	（３） 移住者等の受入体制の強化	（４） まちに必要な機能の可視化
アクション	**朝市の定期開催** ・暮らしたい人を見つけ増やす ・地域の賑わい、人の交流 ・課題や可能性の可視化 ・情報発信力の強化	**情景条例等の策定** ・情景（≒景観）のルールづくり ・内川の価値の言語化、共有 ・漁船などの象徴資産の維持・活用	**空き家の徹底調査** ・空き家の実態把握 ・暮らしたい人の順番待ちリストの作成・可視化	**まちの未来会議の実施** ・既存住民に閉じず、未来のまちの担い手が広く参加する公開会議の開催 ・リノベーションスクールによる実践など住民主体のまちづくりの推進

（４）ビジョンのKPI
（重要業績評価指標）

ここ１０年間マイナスが続く内川周辺エリアの社会動態を５年以内にプラス転換する＝奇跡を未来につなげる。

（５）今後の動き

ビジョンを実現するためには、従来と一線を画した、圧倒的な打ち手・スピード感が必要である。

４つのアクションの５か年ロードマップを令和７年度早々に取りまとめるなど、多様な主体を巻き込みながら、素早く初動を起こす。

産業経済部農林水産課　資料１
産業建設常任委員会
令和７年４月２１日

令和6年度ふるさと射水応援寄附（ふるさと納税）について

1　寄附額及び件数

表1

令和6年度　R7.3.31現在(速報値)		令和5年度		対前年比	
寄附額(円)	件数(件)	寄附額(円)	件数(件)	寄附額	件数
141,879,295	5,138	309,262,851	14,276	45.9%	36.0%
（うち 災害支援(直接寄附)分　2,594,295）	(386)	（うち 災害支援(直接寄附)分　14,887,818）	(1,815)		
（うち 災害支援(代理寄附)分　105,000）	(11)	（うち 災害支援(代理寄附)分　1,316,033）	(119)		

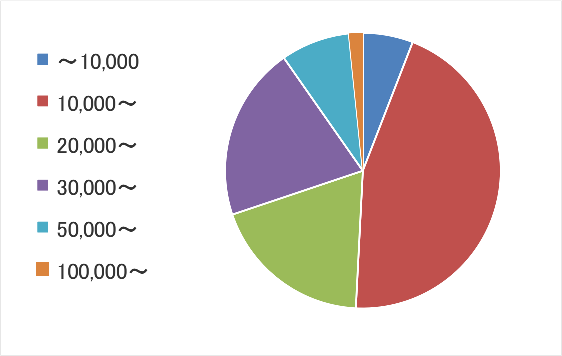
2　金額別寄附件数及び割合

表2

	令和6年度		令和5年度	
金額（円）	件数	割合	件数	割合
～ 10,000	321	6.3%	1,183	8.4%
10,000 ～	2,456	47.9%	8,785	62.1%
20,000 ～	701	13.7%	1,038	7.3%
30,000 ～	1,116	21.8%	2,440	17.2%
50,000 ～	444	8.6%	587	4.1%
100,000 ～	89	1.7%	124	0.9%
合計	5,127		14,157	

※災害支援(代理寄附)分は含まない

図1



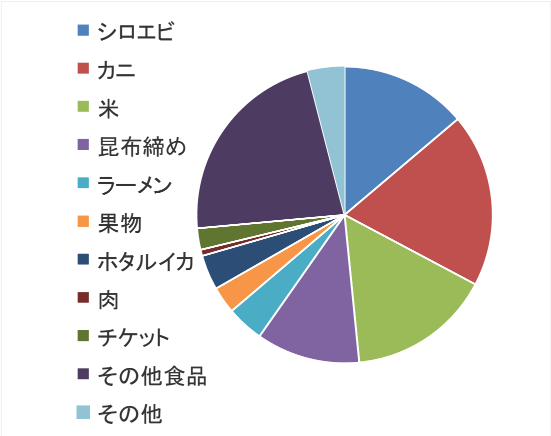
3　人気返礼品の選択傾向

表3

	令和6年度		令和5年度	
種別	件数	割合	件数	割合
シロエビ	752	13.8%	1,553	12.2%
カニ	1,030	19.0%	1,442	11.4%
米	851	15.6%	815	6.4%
昆布締め	616	11.3%	323	2.6%
ラーメン	221	4.1%	282	2.2%
果物	160	2.9%	209	1.7%
ホタルイカ	207	3.8%	117	0.9%
肉	36	0.7%	56	0.5%
チケット*1	128	2.4%	6,632	52.2%
その他食品 *2	1,219	22.4%	1,079	8.4%
その他 *3	219	4.0%	192	1.5%
合計	5,439		12,700	

*1…　日本橋とやま館富山はま作特別コース、ゴルフプレー券、とやま湾フェスティバルチケット など
*2…　醤油、干物、鱒ずし、海鮮加工品、パン、ラーメン、チョコレートなど
*3…　ドラえもんトラムプラレール、家具、フォトパネルなど

図2



4　返礼品の品目数

305（令和6年3月）→　314（令和7年3月）

※新規品目：いみずサクラマス昆布締め・漬け丼・ます寿司、フォトパネル、チョコレート、焼き菓子、楽天トラベルクーポンなど

5　令和6年度取組状況

新規寄附者の獲得に向けて、新たに有効とされるふるさと納税ポータルサイト4サイトにおいて掲載を開始した。また、地域の特産品である「いみずサクラマス」を全国に向けてPRするため、地元事業者と連携し、当該サクラマスを使用した新たな返礼品の提供を開始した。

返礼品の開発等に積極的に取り組む事業者を支援するため、「射水市ふるさと特産品等開発費補助金」制度を新たに創設した。

令和7年度に向けて、返礼品提供事業者への支援や返礼品の開発、プロモーションをより強化するため、中間管理業務事業者を変更し、加えて、米の返礼品の強化をはじめ、海産物を中心とした新規商品の開拓や、現地決済型ふるさと納税の導入など、より魅力的な返礼品の提供を通じて本市の特産品の魅力を広く発信し、安定した財源確保を図っていく。

都市整備部都市計画課　資料１
産業建設常任委員会
令和７年４月２１日

電動キックボードの実証実験について

１　趣旨

太閤山地区リノベーション計画では課題の一つとして「地域交通の維持・充実」を掲げており、手軽に移動できる手段として、電動キックボードの導入を検討している。

令和６年度には、太閤山地区リノベーション計画推進協議会の会員と富山県立大学生を対象に安全講習会及び試乗会を実施した。今年度は、新たな交通手段の導入に向け、利用者の利便性や安全性を確認するため、実証実験を実施する。

２　実証実験期間

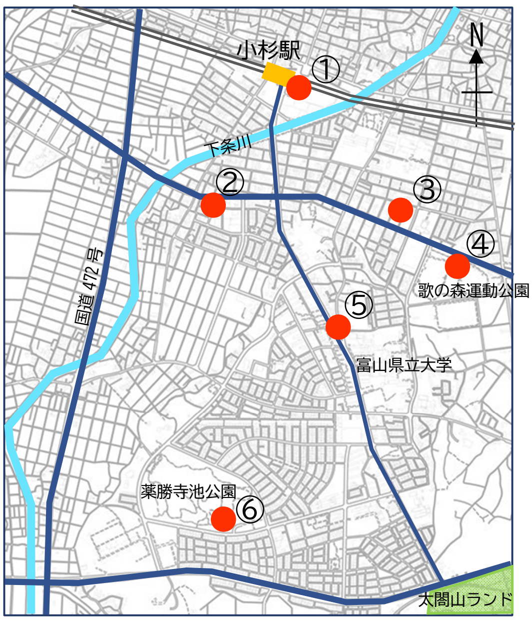
令和７年５月１２日（月）９時から１０月３０日（木）１７時まで
※２４時間利用可能

３　導入台数

電動キックボード８台
※買い物の利便性向上のため、電動アシスト自転車２台も導入する。

４　ポート（乗降場所）の設置場所

①小杉駅南口
②アルビスいみずの小杉店
③アルビス歌の森店
④歌の森運動公園
⑤富山県立大学付近
⑥中太閤山コミュニティセンター
※利用状況を見ながら、順次追加予定。



●ポート設置場所

５　利用料金

１００円/１０分＋基本料金４００円
※安全講習会を受講すれば基本料金が
　無料となる。

６　利用方法

専用アプリで車両のＱＲコードを読み込むことで利用可能となり、返却や支払い手続きも同アプリで行う。

７　安全講習会

５月から９月までの毎月第２土曜日と第３水曜日を基本に、中太閤山及び、南太閤山コミュニティセンターにて、１１回実施予定である。

事前申込制とし、申込み多数の場合や個別に開催希望がある場合は追加開催を検討する。

公共下水道（地震対策）太閤山処理区汚水管改築（第２２工区）工事の事故繰越について

１　概要

令和７年３月３日に、受注業者である(有)肥田建設の主任技術者（資格と実務経験を有する者）が急病により死去した。このことから、急遽、別の主任技術者を後任に充てることが必要となったが、受注業者は、令和６年能登半島地震に伴う工事を複数受注しており、本工事に主任技術者を配置できない状況となった。

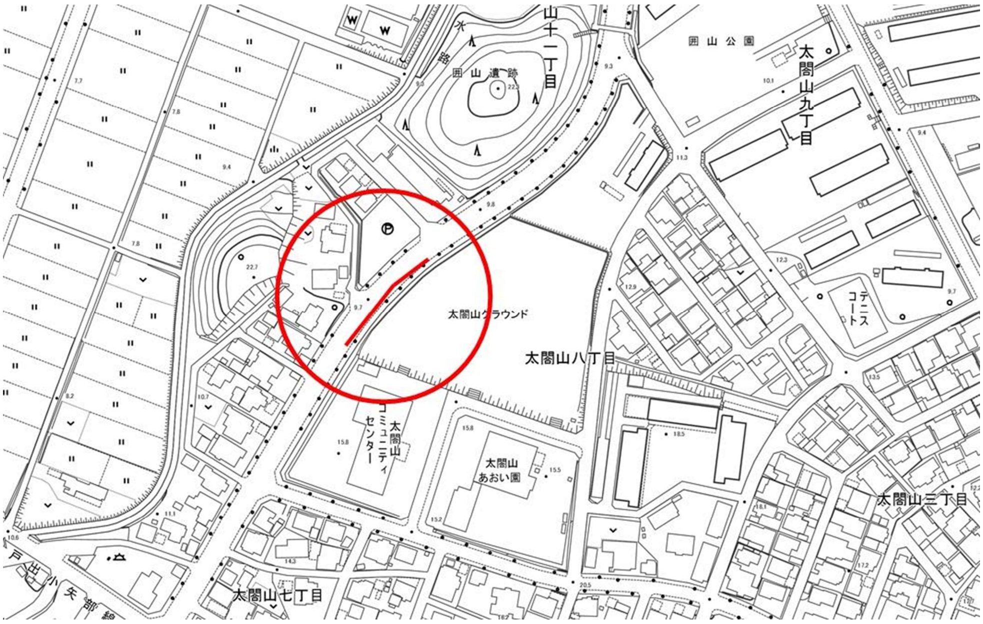
令和７年３月３１日より、新たな主任技術者を後任に充てることで調整できたが、年度内の事業完了が困難となり、本工事を令和７年度へ繰越するものである。

２　工事概要

工事名：公共下水道（地震対策）太閤山処理区汚水管改築（第２２工区）工事

工事内容：汚水管改築　φ400　L＝72m

事故繰越額（契約額）：２４，１０８，７００円

工期：当初　令和６年１０月８日　～　令和７年３月２１日
　　　変更　　　　　　　　　　　～　令和７年６月３０日（予定）

３　位置図